

平成27年度 札内川懇談会

# 実地体験会実施状況

平成28年3月2日

# 平成27年札内川懇談会実地体験会実施状況：6月23日（春季）



## 観光関係者アンケートより

- ・地元の人も気が付いていない場所はたくさんあることに気が付いた。
- ・観光箇所としてはインパクトが弱いので、食や農、その他観光施設等と合わせて売り込めば、人は来ると思う。
- ・宿泊施設がないので、滞在できず時間が取れないのが残念。
- ・普段なにげなく見てる風景でも、現地で専門的な説明を受けると内容に一段と厚みが増してよかった。
- ・一般の観光客が求めているのは「体験」かと思うので、ツアーに組むとしたら、例えば木に触らせて枝を使ったリースを作る等、見て終わりにならないようすべき。
- ・川カフェは女性に嬉しいです。
- ・札内川がきれいだったので、天候や女性への配慮もあればコンテンツとして成立すると思う。
- ・帰りに器だとか食材だとか持ち帰るお土産を用意すれば、なおよくなるかと思う。
- ・ツアーに組むとしたら移動中に行く場所の説明をするなど、飽きさせない工夫さえできればと思う。

### 札内川は資源の宝庫



帯開建懇談会

#### 体験会で観光活用探る

ビョウタンの滝、ケシヨウヤナギ…

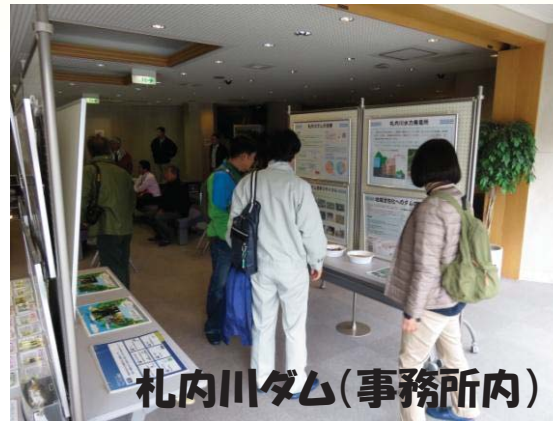
「中札内」札内川の利根谷をたづねてきた帯開建懇談会の「札内川懇談会」（座長・石原由季子）が23日、知られる観光地を関係者に案内する実地体験会を開催し、新たな観光地としての可能性を探った。

同懇談会（帯開や厚岸、ダム、西札内探公園、札内川総合運動公園内のシヨウヤナギなど）を案内した活動ウヤナギなど5カ所を見学を行った。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。

帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。

帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。帯開地内では、札内川の魅力を活かして観光地にする。

# 平成27年札内川懇談会実地体験会実施状況：10月13日（秋季）



# 平成27年札内川懇談会実地体験会実施状況：10月13日（秋季）

## 札内川の魅力探る

帯開建設懇談会 紅葉楽しみ意見交換



川の上からひと味違った紅葉狩りを楽しむ参加者

【中札内】札内川の利活用などを考える帯広開発建設部の「札内川懇談会」（座長・石原由美子・アトリエゆふ代表）が13日、上流の観光資源を関係者に案内する秋季実地体験会を開催した。参加者は紅葉を楽しみながら意見交換し、新たな観光地としての可能性などを考えた。

札内川の魅力を内外に発信しながら地域活性化につながる取り組みとして、紅葉を体験した。十勝温泉組合十勝ネイチャーセンターの相田健志さんと市川淳さんによる案内で、川の上から赤や黄色に色づいた山を眺めるなど、ひと味違った紅葉狩りを満喫した。

葉がピークを迎え同地域が美しくなるこの時期に合わせ実施。行政や自然保護関係者で構成するメンバー20人が、観光関係者4人を案内した。

一行は札内川ダムの施設見学など、5カ所それぞれのアトラクションを楽しんだ。このうち中札内村市街地から16キロ上流にある札内川第1号砂防堰堤（えんてい）では、貯水池の水面を活用してカヌー・ボート

十勝温泉観光協会の推薦で参加した帯広市内の杉山悦子さん（自然保護）は、観光資源は豊富だが、トイレを含めた公共設備の整備も必要」と指摘していた。（小寺泰介）

## 中札内・ケータリングMENU

- 中札内の鶏卵と十勝大豆100%の豆腐を使ったファルス トマト添え。
- 中札内田舎鶏のガーリックロースト マスタードのソース
- 芽室 自然菜園ふたばのキタアカリとローザンルビーのマッシュ
- 十勝フロマージュのラクレットチーズとカマンベールチーズ
- 十勝牛のコッパ
- オーガニックサラダ
- オーガニックのフランクフルト
- 中札内産の枝豆を使ったスープ
- 天然酵母のパン盛り合せ
- モンブランとコーヒー又は紅茶

※野菜は契約農家の自然菜園ふたばさんの野菜で無農薬野菜を使用しています。



## 札内川で晩秋を満喫

観光関係者招き  
開建が「体験会」

中札内



川のほとりで秋の深まりを感じながら料理を楽しむ参加者

【中札内】国内有数の清流である札内川を観光資源として生かそうと、帯広開発建設部の「札内川懇談会」が13日、上・中流部の魅力を観光関係者に紹介する「実地体験会」を開いた。行政や自然保護団体など

の約20人が参加。一行は札内川ダム周辺で紅葉を楽しみ、ダム施設を見学。砂防せきの貯水池ではカヌーやボートに乗り、景色を満喫した。

また、札内川総合運動公園内の川のほとりでは昼食

会も実施。帯広市内のレストラン「ブティル・マンジエ」の小島哲也オーナーシェフが中札内枝豆や鶏肉を使ったフランス料理を振る舞った。

帯広市観光課の加藤帝課長は「このロケーションの中での食事は他ではできないと思う」と手応えを話していた。（田口博久）

## 観光関係者アンケートより

- ・ターゲット層をどこにするのか(若年層、ファミリー、シニア)によって、何が観光素材として魅力的になるのかが変わる。
- ・今回の素材であれば、シニア層(時間とお金がかかる)をターゲットとして組み立てるといいのではないか(サイクリングもいいかもしれない)
- ・「非日常」を味わえた。日常の景色と違い、ダムも紅葉も上から下からを様々な眺めを楽しめた。
- ・トイレがきれいだと気分が下らず、気持ちよくすごしてもらえるとよい。
- ・料理は野外ですてきなお料理・・・ギャップが楽しい。
- ・ビュッフェのような会話を楽しめるようなプランがあればよい(参加者交流)
- ・ふたつのチョイスがあっても、ニーズが広がるのではないかと思う。